

米子工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	社会思想論Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0073		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	総合工学科 (化学・バイオコース)		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	村上陽一郎『科学史・科学哲学入門』 (講談社学術文庫)						
担当教員	布施 圭司						
到達目標							
<p>自然と科学をめぐる重要な問題を簡単に説明できる。  現代人の自然観・人間観の問題を理解できる。  現代人の自然観・人間観の問題について論述文が作成できる。</p>							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1現代人の自然観について理解できる	現代人の自然観について非常に良く理解できる		現代人の自然観について概ね理解できる		現代人の自然観について理解が不十分		
評価項目2現代人の人間観について理解できる	現代人の人間観について非常に良く理解できる		現代人の人間観について概ね理解できる		現代人の人間観について理解が不十分		
評価項目3適切に論述文が作成できる	内容・表現が非常に良い		内容・表現が概ね良い		内容・表現が不十分		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A							
教育方法等							
概要	現代人の生命観・自然観に関する文献を読み進めながら、現代社会が直面する問題を考察する。社会が直面する諸問題の背景や課題について知見を獲得し、社会・文化・人間について幅広い見方を身につけることを目指す。						
授業の進め方・方法	教科書を読み進めながら、諸問題について解説・考察する。受講者は、内容を読解し、それについて自ら考えて行く。						
注意点	日頃は新聞などで世界の出来事に注意を払うことが望ましい。 毎火曜日の16-17時をオフィスアワーとする。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 生命・自然に関する時事問題の情報収集/関連概念の学習/レポートの作成						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、問題の所在…自然と人間	問題の所在について説明できる。			
		2週	科学的知識の発展1	科学的知識の発展について説明できる。			
		3週	科学的知識の発展2	科学的知識の発展について説明できる。			
		4週	科学的知識の発展3	科学的知識の発展について説明できる。			
		5週	科学的知識の発展4	科学的知識の発展について説明できる。			
		6週	科学・哲学・神学1	科学・哲学・神学について説明できる。			
		7週	科学・哲学・神学2	科学・哲学・神学について説明できる。			
		8週	科学・哲学・神学3	科学・哲学・神学について説明できる。			
	4thQ	9週	科学・哲学・神学4	科学・哲学・神学について説明できる。			
		10週	近代合理主義1	近代合理主義について説明できる。			
		11週	近代合理主義2	近代合理主義について説明できる。			
		12週	近代合理主義3	近代合理主義について説明できる。			
		13週	近代合理主義4	近代合理主義について説明できる。			
		14週	自然・人間に関する補足説明	自然・人間に関する主なトピックを理解できる。			
		15週	定期試験				
		16週	全体のまとめ (自然・人間に関する主なトピックの考察)	自然・人間に関する主なトピックを理解できる。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3		
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	30	0	0	0	30	100
基礎的能力	40	30	0	0	0	30	100

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0